

トピックス…③

全国3カ所で

平成21年度酪農教育ファーム認証研修会

本会は1月から2月にかけて、東京、大阪、北海道の全国3カ所で、平成21年度の酪農教育ファーム認証研修会を開き、新たに100人が「酪農教育ファームファシリテーター」に認証された。

● 100人が新たにファシリテーター認証

酪農教育ファーム認証制度は平成20年度から、酪農教育活動を実施する場所(認証牧場)と人(ファシリテーター)をそれぞれ認証する仕組みに改正した。このため、酪農家が酪農教育ファーム活動を実施する場合、認証牧場とファシリテーターの両方の認証を受けないと活動できなくなった。

東京、大阪、北海道帯広市の3会場で開かれた21年度の認証研修会には、ファシリテーターの認証を希望して書類審査を通過した酪農家、指定団体、農協などの関係者100人(東京52人、大阪32人、帯広16人)が参加した。参加者は本会事務局、専門の講師、認証を受けた酪農家から、酪農教育ファームの活動の狙いや意義、認証牧場での衛生管理、子どもたちとのコミュニケーションの手法などを2日間にわたって学び、新たにファシリテーターの認証を受けた。

東京での研修会は1月21日～22日の2日間、東京・八重洲のTKP東京駅ビジネスセンターで開かれ、酪農家、農協、指定団体、公共牧場などの関係者52人が参加した。



東京会場で事例発表するファシリテーターの安原氏

● 牧場体験は酪農の将来に非常に大事・門谷専務
認証牧場は291牧場、ファシリテーターは507人

主催者挨拶した門谷廣茂専務は「本会が酪農教育ファーム活動を提唱して10年が経過し、現在は500人を超すファシリテーターが指導的な立場で活動に取り組み、20年度は70万人を超える人たちを受け入れる大きな事業となった。牛を見たことがない子どもが多い時代となり、全国の牧場で酪農現場を見てもらうことが、酪農の将来のためには非常に大事なことだ。認証を受けた皆さんの活動を全国の酪農家が期待しており、この活動を続けることが牛乳製品の消費拡大にもつながることを期待している」と述べた。

中酪酪農理解促進室の三代絵里氏は酪農教育ファーム活動の歴史、意義、認証制度の仕組みを説明したほか、21年度末の認証牧場数は291牧場(20年度末は257牧場)、ファシリテーターは507人(同407人)にそれぞれ増加すると報告した。

一方、千葉県農業共済連家畜部保険課の長谷川隆課長は「認証牧場での安全・衛生基準」と題して講義した。長谷川氏は、牧場に消費者を受け入れた場合の安全・衛生対策のポイントとして、適切な手洗い場の配置と手洗いの励行で多くの感染症が防げることなどを説明した。

酪農教育ファーム活動の実践事例を発表した青森県の酪農家でファシリテーターの安原栄蔵氏は、子どもたちに実践している目や耳など五感を使って牧場を感じるワークショップ(研修)を参加者で行った。また、青森県五所川原市立一野坪小学校の鳥谷部宮子教諭は、安原氏の牧場での酪農体験の内容を説明。2日目には、青木ファシリテーター事務所の青木将幸代表が、子どもたちとのコミュニケーションの取り方などを講義した。